

〔研究ノート〕

小児看護における子育て支援に関する文献レビュー

—小児救急医療における子育て支援への示唆—

藤澤盛樹

Seiki Fujisawa

大阪総合保育大学大学院
児童保育研究科 児童保育専攻

小児看護における子育て支援の内容及び研究動向について概観し、小児救急医療における子育て支援への示唆を得ることを目的に文献レビューを行った。医中誌 Web 版 (Ver. 5) ならびに CiNii Articles の文献検索データベースを用いた。掲載年次を指定せずに「小児救急」、「育児支援」、「子育て支援」、「小児看護」をキーワードとし、子育て支援もしくは育児支援に関する具体的な記述のある研究論文 79 件とハンドサーチによるレビュー論文 1 件の計 80 件を対象文献とした。掲載年次の推移、論じている子育て支援及び育児支援の内容の類似性をカテゴリ化して分類した。

文献の掲載は全て 2000 年以降であった。子育て支援の記述内容は、【電話相談】、【新生児期の子どもをもつ母親への医療機関の看護職の支援】、【乳児期以降の子どもの母親への医療機関の看護職の支援】、【子どもの有する問題に対応した親への支援】、【母親の有する問題に対応した支援】、【育児相談と交流できる場の提供】、【医療機関以外の場での看護職の支援】、【看護職の子育て支援に関する課題】に分類された。文献の多くが低年齢の子どもの母親を対象とし、あらゆる場で母親の相談に応じ助言することを子育て支援として捉えられていることが分かった。小児救急医療に限定した子育て支援に関する文献は少ないが、小児救急医療機関での子育て支援に活用可能な示唆を得られた。

キーワード：小児救急医療、小児看護、子育て支援、文献レビュー

I. はじめに

本邦における子どもの人口は年々減少を示しているが、小児救急医療では 15 歳未満の小児外来患者数が増加し、そのうち入院を必要としない患者割合が 90% を超えている (厚生労働省, 2015a)。従来の夜間や休日の小児救急医療は地域における在宅当番医制や二次医療圏ごとの病院輪番群制によって担われている地域が多かった。しかし入院を必要としない患者が多く来院し、対応する小児科医不足や不採算を理由に小児救急医療体制を維持できない地域が存在した。そこで小児救急のなかで入院治療を必要としない一次救急医療を提供する医療機関を集約化し、2004 年大阪府の豊能医療圏に小児専門の救急医療機関が開設された。現在同様の施設の整備が日本全国で増えている。さらに重症の小児救急患者のための三次救急医療機関として小児救命救急センターの整備を進めている状況にある (厚生労働省, 2017; 厚生労働省, 2015b; 厚生労働省, 2014; センターについて)。軽症の小児救急患者の増加は、核家族化による育児能力の世代間継承不足、マニュアル志向の画一的育児の風潮、少子化による急病不安の増大 (市川, 2001) や

保護者の 90% 以上が小児救急医療を子育て支援の柱と考えている (田中, 2000) など、いつでも質の高い小児救急医療を受けたいというニーズの高まりが原因と考えられている。このような状況下において、小児救急医療機関の受診を好機とした子育て支援や養育者支援の必要性 (松岡, 酒井, 佐藤, 他, 2004)、小児救急医療そのものが子育て支援の一部であるといった提言が増えている (市川, 2007; 横田, 2005)。

これらの子どもを育てる親のニーズや小児救急医療に携わる医療者の提言から、小児救急医療における子育て支援がどういった事を指すのかを明確にしたうえで、小児救急医療における子育て支援を検討したいと考えた。少子高齢社会の日本では 1990 年以降エンゼルプランをはじめとする様々な少子化・子育て支援政策を展開し、一部で子育てに関する問題の改善や子育てに対する満足度の高さを示すデータもみられるようになった (森田, 2010)。一方で子育て支援及び育児支援という用語が広く多用され社会に根付いてきたが、その定義や概念を明確に述べたものではなく、その都度操作的に定義され概ね広義的に解釈されている。厚生白書・厚生労働白書を基に子育て支援の概念を概観した報告によると、「子

育て支援」の内容は経済支援、人的支援、精神的支援等多岐にわたり、少子化問題から展開される福祉制度として1990年を起点とし、時代とともに「親支援」概念と「子支援」に分岐し、その支援の幅を母子から就労する母親、両親、家族と、子育てに関わる個人へと広げ、子育てに関わる個人同士の支え合いや交流する場を示す用語としても範疇を広げてきた(賀須井, 2016)。つまり、子育て支援の概念は20数年の間に変化し続け、かつ多様に捉えられて現在に至り、子育て支援の対象としては母親主体から父親や祖母など母親以外の養育者も育児の主体者として認識され子育てに関わる個人になりつつある。小児救急医療における子育て支援について、その対象は受診する子ども及び付き添う個人としてほとんどが母親や父親、祖母などという養育者であると想定できる。その対象者への支援内容としては、少なくとも経済的な支援ではない小児救急における子育て支援の内容を明確にしておく必要がある。そして小児救急医療機関での看護職を主体とする子育て支援の検討に向け課題を見出したいと考えた。したがって本研究の目的は、小児看護における子育て支援の内容及び研究動向について概観し、小児救急医療における子育て支援への示唆を得ることである。

II. 方法

1. データ収集方法

2019年6月に、掲載年を指定せずに医中誌Web版(Ver. 5)にて、小児救急 and 育児支援 and 原著論文、小児救急 and 子育て支援 and 原著論文及びCiNii Articlesにて、小児救急 and 育児支援、小児救急 and 子育て支援で検索し、会議録や商業誌を除くと、ヒットした論文は5件のみであった。本研究は小児救急医療に

における子育て支援の内容及び研究動向を先行研究の概観を目的に、小児救急医療機関の看護職を主体とする子育て支援の検討を趣旨とするため、検索式に小児看護を掛け合わせ、医中誌Web版(Ver. 5)にて小児看護 and 子育て支援 and 原著論文、小児看護 and 育児支援 and 原著論文及びCiNii Articlesにて、小児看護 and 育児支援、小児看護 and 子育て支援で検索し、重複や商業誌、会議録を除き、子育て支援もしくは育児支援に関する具体的な記述のあるものを選定して、先に検索した5件と合わせると79件となった。またハンドサーチにて母親への子育て支援に関するレビュー文献1件を追加し80件をデータ文献とした。

2. 分析方法

データ文献を示し、論じている子育て支援及び育児支援の内容をコード化し、コードの類似性から抽象度を上げサブカテゴリー、カテゴリー化して分類した。

3. 倫理的配慮

先行して行われた研究を引用した場合には、文献の存在を明示し、先行研究が示す知見と自らが明らかにした知見を区別して述べた。

III. 結果

1. データ文献の掲載年次の推移

医中誌Web版(Ver. 5)に掲載されていた小児救急 and 育児支援 and 原著論文、小児救急 and 子育て支援 and 原著論文、小児看護 and 子育て支援 and 原著論文、小児看護 and 育児支援 and 原著論文をキーワードに検索された文献の年次の推移と、CiNii Articlesに掲載されていた小児救急 and 育児支援、小児救急 and 子

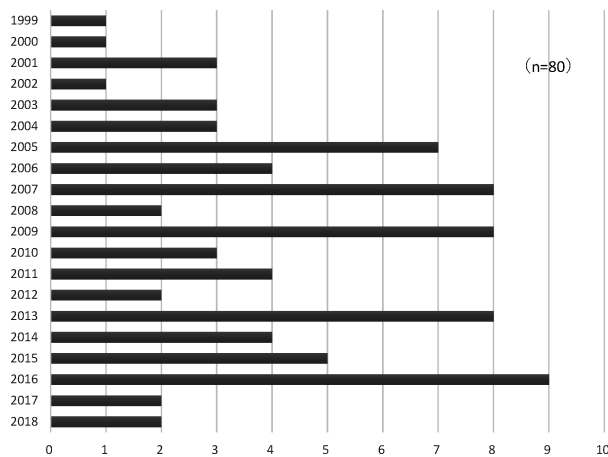


図1 データ文献件数の掲載年次

育て支援、小児看護 and 育児支援、小児看護 and 子育て支援をキーワードに検索された文献の掲載年次の推移を示した(図1)。1999年より以前には論文が存在せず、2005年頃から増加していることが明らかであった。

2. 子育て支援に関する内容

データ文献80件(表1)の育児支援及び子育て支援の内容をコード化し、コードの類似性から抽象度を上げサブカテゴリー、カテゴリー化してまとめた(表2)。

表1 データ文献一覧

データ番号	著者	掲載年	タイトル	掲載誌等
1	樋貝繁香, 籠谷京子, 赤池佑季子, 他	2014	小児初期救急センターの電話相談の現状と看護師の思い	日本小児救急医学会雑誌, 13(1), 24-29
2	祖父江育子, 谷本公重, 大橋順子, 他	2013	子ども数と出生順位による小児救急受診状況	日本救急看護学会雑誌, 15(2), 13-22.
3	川畑佳奈, 宮崎文子, 関屋伸子, 他	2018	NICUの看護職による母乳育児支援の実態調査「NICUに入院した新生児のための母乳育児支援ガイドライン」の視点から	日本母子看護学会誌, 11(2), 77-86.
4	和久井香菜恵	2017	母乳育児を通じての直接授乳支援～早産・低出生体重児における授乳場面を通して学んだこと～	川崎市立川崎病院事例研究集録, 19, 115-117.
5	高橋歩未, 菊地華子, 川井諭	2016	NICU・GCU退院後の母乳育児継続に関連する要因～退院1週間および1ヵ月後の面接調査を通して～	秋田県母性衛生学会雑誌, 28, 36-40.
6	柴田真由美, 佐藤恵, 三浦たつえ, 他	2016	当院NICUにおけるカップ授乳導入前後での母乳栄養率、直接授乳率の検討	大垣市民病院誌, 20, 5-6.
7	小松亜里紗, 兒玉英也	2016	文献調査に基づくNICUでの効果的な母乳育児支援の提唱	秋田県母性衛生学会雑誌, 28, 41-45.
8	村上弘子, 久保和子, 小林裕子, 他	2016	母乳育児支援への取り組み～早期頻回授乳を試みて～	三田市民病院誌, 27, 50-56.
9	松本麻依, 渡邊美香	2015	NICUにおける直接授乳介助のスタッフ教育についての実践報告	栃木県母性衛生学会雑誌: とちほ, 41, 31-32.
10	荒川愛子, 大西由紀子, 江南宣子, 他	2015	NICUにおける母乳育児支援の具体的情報提供の試み パネルによる早期指導の導入に向けて	奈良県母性衛生学会雑誌, 28, 47-50.
11	長田順子, 櫻井励子, 葉袋由美, 他	2014	新生児の退院基準から考える母乳育児支援	山梨県立中央病院年報, 40, 53-55.
12	森弘子, 加藤恵, 作田美穂, 他	2014	正常新生児に看護計画を活用した母乳育児支援	大阪母性衛生学会雑誌, 50(1), 62-65.
13	亀山千里, トーマス京子, 門間智子, 他	2013	直接授乳困難に陥っている低出生体重児を出産した母親の母乳育児に対する気持ち	日本看護学会論文集: 小児看護, 43, 118-121.
14	亀山千里, 門間智子, 小林美幸	2012	母乳育児が可能となるまで母乳分泌を維持するための支援の効果 母乳育児支援内容の標準化の取り組みに向けて	日本看護学会論文集: 小児看護, 42, 3-5.
15	角川志穂, 成田伸, 齋藤良子, 他	2011	児がNICU入院中の母乳育児支援の効果についての研究	自治医科大学看護学ジャーナル, 8, 195-197.
16	立木歌織, 高橋斉子, 高木友子, 他	2011	NICU入院中の児を持つ母親の搾乳に関する実態調査	自治医科大学看護学ジャーナル, 8, 125-132.
17	高橋斉子, 高木友子, 立木歌織, 他	2011	児がNICU入院中の母親に対する母乳育児支援-搾乳量が低迷する事例から-	栃木県母性衛生学会雑誌: とちほ, 37, 25-29.
18	吉川俊恵, 石田貞代	2010	NICU看護師への搾乳支援に関する効果	母性衛生, 51(1), 85-91.
19	北野由起恵, 大磯美幸, 春岡恵子, 他	2009	出生時体重が2500g未満で母子同室をした新生児と母親への母乳育児支援	加古川市民病院誌, 9, 20-22.
20	小池志保, 石森英子, 入江静香, 他	2009	NICU看護スタッフの母乳育児支援への意識向上に向けて	日本看護学会論文集: 小児看護, 39, 119-121.
21	東嶋加奈子, 西田友子	2009	新生児治療における母乳育児支援の取り組み	佐賀母性衛生学会雑誌, 12(1), 38-41.
22	谷寿絵子, 山木勢津子, 藤田佳江, 他	2010	超低出生体重児を出産した母親の母乳分泌維持にむけた援助とその成果	日本看護学会論文集: 小児看護, 40, 69-71.
23	鎌田雅子	2009	超低出生体重児の乳房授乳時の哺乳効率-修正月齢4ヵ月までの縦断調査-	日本看護学会論文集: 小児看護, 39, 206-208.

小児看護における子育て支援に関する文献レビュー

データ番号	著者	掲載年	タイトル	掲載誌等
24	濱谷恵里子, 山村里栄子, 中村綾, 他	2007	未熟児室における母乳育児支援に対する母親の評価	川崎市立川崎病院院内看護研究集録, 61, 36-40.
25	田中智栄, 山中島邦子, 石田由貴子, 他	2005	母乳育児支援にむけた当院の取り組み	新潟県厚生連医誌, 14(1), 30-33.
26	星和子, 高橋千佳子, 山本優子, 他	2004	当院における母乳育児支援-導入後半年の現状と評価-	仙台市立病院医誌, 24, 129-136.
27	庄子忠宏, 井筒俊彦, 利部輝雄, 他	2002	Kangaroo care と出生直後の直接授乳が母乳育児に与える影響	母性衛生, 43(2), 327-331.
28	白坂真紀, 桑田弘美	2016	NICU 退院後フォローアップ外来を受診する児童の両親の実情とニーズ	滋賀医科大学看護学ジャーナル, 14(1), 18-24.
29	白坂真紀, 桑田弘美	2013	NICU を退院した双子を養育する父親の育児の実際	日本小児看護学会誌, 22(1), 116-121.
30	白坂真紀, 寺澤明子, 桑田弘美	2013	NICU を退院した子どもとその家族への包括的支援に関する研究-双子をもつ母親の養育における実情-	日本看護学会論文集: 小児看護, 43, 86-89.
31	金谷瑠美, 山崎美怜, 小山啓美, 他	2013	未熟児センターにおける育児支援の検討~低出生体重児をもつ母親の育児不安を知り今後の退院指導を考える~	函館中央病院医誌, 15, 66-68.
32	米村幸子, 入江亜矢, 谷口さつき	2008	NICU へ入院した児をもつ母親の退院1ヵ月後の育児支援の検討	日本看護学会論文集: 小児看護, 38, 158-160.
33	田中美樹, 佐藤香代	2007	NICU 退院児と母親に対する育児支援に関する研究~NICU 看護師のインタビューを通して(第1報)	福岡県立大学看護学研修紀要, 4(1), 28-34.
34	田中美樹	2006	NICU 退院児と母親への継続的育児支援に関する研究	日本新生児看護学会誌, 13(1), 15-21.
35	佐東美緒	2005	NICU を退院した子どもを育てる両親の育児への思いと育児支援の方向性	高知女子大学紀要 看護学部編, 54, 13-26.
36	近藤祐子, 角井直美, 大宮加代子, 他	2005	低出生体重児の母親の思いの変化とタイプ- NICU 退院までの状態や成長発達への思いに焦点をあてて-	日本看護学会論文集: 小児看護, 35, 59-61.
37	加藤睦美, 伊藤美佳, 佐野淳子	2006	小児科外来看護師と出産後の母親との信頼関係構築のための退院前訪問-育児支援としての効果-	日本看護学会論文集: 小児看護, 36, 59-61.
38	白尾民子, 石澤香代子, 永吉知佳子, 他	2001	患児(未熟児を含む)を抱える母親に対する看護者の役割-ヘルスプロモーションにおけるPRECEDE/PROCEED モデルを用いて-	日本看護学会論文集: 小児看護, 31, 6-8.
39	稲垣利矢子, 小島雅美, 谷村聖名, 他	2010	NICU 入院児の母親の対児・対夫への愛着の関連性-アンケート結果から父親を含めた育児支援について考える-	日本看護学会論文集: 小児看護, 40, 72-74.
40	齊藤泉	2016	小児科外来の看護職が行う育児支援とその関連要因	北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 12(1), 41-48.
41	堂前有香, 小川純子, 伊庭久江, 他	2003	乳児の母親の育児上の困難~育児や健康管理に関するアンケート調査より~	千葉大学看護学部紀要, 26, 11-18.
42	伊庭久江, 堂前有香, 小川純子, 他	2003	医療機関の看護師が行う育児支援について	千葉大学看護学部紀要, 26, 19-26.
43	崎山由香理, 梶原多恵, 藤波志生子, 他	2010	小児救急病棟における育児支援シートの導入	日本小児救急医学会雑誌, 9(1), 36-40.
44	宮林沙帆	2013	双胎児の両親への退院支援~退院後に育児困難感を訴えた事例を振り返って~	川崎市立川崎病院事例研究集録, 15, 99-102.
45	渡邊タミ子, 石川操, 遠藤俊子, 他	1999	0から3歳頃までの双胎児のいる母親の育児支援の課題に関する検討~単胎児との比較~	山梨医科大学紀要, 16, 39-46.
46	松井菜々子, 高知恵	2016	ダウン症児をもつ家族の心理変化と育児支援について	大阪母性衛生学会雑誌, 52(1), 23-26.
47	酒井枝津子, 今泉和恵, 徳永美由紀, 他	2005	新生児搬送入院後, 外科的治療を目的に転院となった先天性心疾患患児の看護展開(退院後の育児支援に向けて)	佐賀母性衛生学会雑誌, 8(1), 23-25.
48	内山英里子	2009	入院した病児の同胞児への医療・福祉関係者の関わりの実態	秋田県母性衛生学会雑誌, 23, 40-46.
49	富田秋枝, 末松由香, 永澤佳代子	2012	精神疾患合併褥婦に対する育児支援の実態-平成22年4月から平成23年3月-	全国自治体病院協議会雑誌, 51(5), 72-75.
50	伊藤直美, 新井容子, 盛田和紀, 他	2006	統合失調症の母親への育児支援-地域との連携を通して行った援助を振り返って-	日本看護学会論文集: 小児看護, 36, 15-17.
51	橋倉尚美, 四本由郁, 田口真規子	2018	育児過誤症例への育児支援と課題	愛仁会医学研究誌, 49, 84-86.

データ番号	著者	掲載年	タイトル	掲載誌等
52	高杉友果, 藤川理恵, 中村美絵, 他	2011	3ヵ月児を持つ保護者の小児救急医療に対する不安に関連する要因－保護者の育児環境、育児支援に焦点をあてて－	日本看護学会論文集：地域看護, 41, 88-91.
53	尾関唯未, 浅野みどり, 石黒彩子, 他	2005	育児不安軽減のための看護支援に関する研究－遊びを通じた母子相互作用の促進－	日本小児看護学会誌, 14(2), 58-64.
54	笹尾あゆみ, 山本八千代, 前田尚美, 他	2016	北海道科学大学が提供する地域子育て支援活動	北海道科学大学研究紀要, 41, 213-216.
55	大沢早苗, 内山久美, 西谷美幸, 他	2007	看護者による育児に関する援助活動の意味	日本看護学会論文集：小児看護, 37, 35-37.
56	河合洋子, 森下秀子, 今西理英子, 他	2001	医療スタッフによる子育て支援	名古屋市立大学看護学部紀要, 2, 109-113.
57	浦山晶美	2017	子育て支援に関する文献検討と母親への支援の課題	山口県立学術情報（看護栄養学部紀要）, 10, 39-45.
58	牛越幸子, 内正子, 吉竹佐江子, 他	2016	国内における地域を拠点とした看護職者による子育て支援の現状と子育て支援に対するニーズ－文献検討の結果から－	神戸女子大学看護学部紀要, 1, 3-13.
59	宮城由美子, 大倉真美	2005	アトピー性皮膚炎をもつ母親の不安－乳幼児期に初期診断されて－	日本看護学会論文集：小児看護, 35, 201-203.
60	飯村直子	2007	小児の外来看護に関する国内文献の検討	日本小児看護学会誌, 16(1), 53-60.
61	吉野純	2014	「親の発達」の概念分析	日本小児看護学会誌, 23(2), 25-33.
62	若井和子, 小河孝則	2009	乳児院での保育看護における看護師の専門的役割	小児保健研究, 68(6), 636-642.
63	若井和子, 小河孝則	2009	乳児院での保育実践における看護ニーズの検討	川崎医療福祉学会誌, 18(2), 383-392.
64	金城やす子, 八田早恵子	2015	保育園における障害児や医療的ケア児の受け入れと課題－保育園看護職の配置との関連において－	保育と保健, 21(1), 37-40.
65	阿久澤智恵子, 佐光恵子, 青柳千春, 他	2013	保育所看護職者が認識している保育保健活動における役割	日本小児看護学会誌, 22(1), 48-55.
66	佐藤親可	2007	保育所の保健活動における看護職の専門性の追求	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護教育研究集録, 32, 231-238.
67	安藤千恵, 友田尋子, 大岩尚美, 他	2003	児童養護施設における看護職による子育て支援の実践	日本小児看護学会誌, 12(2), 65-69.
68	野口裕子, 上田真由美, 鈴木真知子	2007	在宅における超重症児の子育て支援に関する訪問看護師の意識（第二報）	日本赤十字広島看護大学紀要, 7, 19-25.
69	齊藤泉	2013	小児外来に勤務する看護職が認識する育児支援	北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 9(1), 101-106.
70	小川純子, 伊庭久江, 堂前有香, 他	2005	看護師の行う親への育児支援に関する認識	日本小児看護学会誌, 14(1), 30-35.
71	岸川亜矢, 河合洋子, 上山直美, 他	2009	C市における子育て環境の実態～育児困難、育児支援についての質問紙調査～	関西看護医療大学紀要, 1(1), 39-46.
72	大塚みゆき, 高野政子, 山下早苗, 他	2007	4ヵ月児を持つ母親の母子保健サービスの利用実態とサービスに対するニーズ	日本看護学会論文集：小児看護, 37, 119-121.
73	和田宜子, 高野政子, 山下早苗, 他	2007	1歳6ヵ月児を持つ母親の育児支援サービスの利用実態とニーズ	日本看護学会論文集 小児看護, 37, 116-118.
74	北林佳美, 櫻井静香	2005	NICU 退院児を持つ母親への育児支援の現状と今後の課題	日本看護学会論文集：小児看護, 35, 62-64.
75	深田美香, 南前恵子, 笠置綱清	2001	育児支援としての病児保育のあり方と看護の役割に関する検討～松江市における7調査結果の分析より～	米子医学雑誌, 52, 183-195.
76	上山和子, 山本裕子	2015	子育てカレッジを活用した小児看護学実習の教育評価と課題	新見公立大学紀要, 36, 7-12.
77	鴨田真裕子, 光楽香織, 甲斐寿美子	2006	小児看護学実習における育児サークル活動の見学、参加実習を通じた学生の学び及び気づきの実態	帝京平成短期大学紀要, 16, 43-47.
78	松浦和代, 濱中喜代	2001	小児看護の今後10年間の展望に関する調査	日本小児看護学会誌, 10(1), 31-36.
79	原弘, 土屋さなえ, 伊賀文計, 他	2004	兵庫県における子育てに関連した公衆衛生活動の実情	兵庫県医師会医学雑誌, 47(1), 57-62.
80	鈴木香代子, 岡光基子, 廣瀬たい子, 他	2015	フィンランドにおける子どもの虐待予防のための育児支援－看護職による活動を中心に－	小児保健研究, 74(3), 447-452.

(1) 電話相談

いずれも小児救急医療に関する研究がなされており、電話相談を子育て支援として位置づけていた（データ番号：1・2）。また急病時の子どもの対処法を情報提示するWEBサイトも子育て支援として捉えられていた（データ番号：2）。

(2) 新生児期の子どもをもつ母親への看護職の支援

このカテゴリーは、①母乳育児推進の支援、②NICU退院前後の親子への支援、③看護職からの育児に関するアドバイス、④父親を対象とする支援の4つのサブカテゴリーから構成された。正常及び低体重や先天性疾患などの異常にかかわらず新生児期の子育て支援の実践やその重要性について研究がなされていた。

①母乳育児推進の支援

新生児集中治療室（以下、NICUとする）や産科病棟など、出産に関与する周産期看護の分野での母乳育児の推進について実践報告、ケース研究、介入研究、量的調査など多くの研究がなされていた（データ番号：3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27）。したがって周産期看護の分野では、母乳育児を推進する援助を育児支援の一つとして位置づけていた。また母乳育児推進の支援については、子育て支援として最多のデータ文献を認めた。

②NICU退院前後の親子への支援

NICUの看護職は退院に向け哺乳や抱っこなどを指導し、退院後を想定した具体的な事象に対するアドバイスや地域機関への介入依頼、新生児訪問など既存の行政サービスやインフォーマルな育児サークルの情報提供などを子育て支援とし、NICU在室中から親に実施していた。また退院後の定期的なフォローアップ外来など、NICUをもつ医療機関の機能そのものも子育て支援とされていた。さらに退院後にNICUの看護職は電話訪問を行っていたり、電話相談を受けていたりした（データ番号：28・29・30・31・32・33・34・35）。一方で母親の育児に対する姿勢や様子からタイプを設定し、タイプ別に合わせた育児支援方法の示唆を提示した研究が見られた（データ番号：36）。

③看護職からの育児に関するアドバイス

小児科外来看護師の出産後退院前訪問を実施後の外来受診において、母親の育児に対する困難感や楽しさへの回答がポジティブに変化していたことが示された（データ番号：37）。またヘルスプロモーションの視点から、PRECEDE/PROCEEDモデルを用いた産後の母親への実際の支援報告が見られた（データ番号：38）。

④父親を対象とする支援

母親の対児・対夫感情を調査したうえで、母親と児に重要である父親になった夫を含めた育児支援の必要性を示していた（データ番号：39）。

(3) 乳児期以降の子どもの母親への医療機関の看護職の支援

このカテゴリーは、①小児科外来の看護職が行う育児支援、②小児が利用する医療機関で勤務する看護師が行う育児支援、③入院を契機とする看護職からのアドバイスの3つのサブカテゴリーから構成された。乳児期以降の子どもを育てる母親への子育て支援について、看護職が直接かかわっていることが示されていた。

①小児科外来の看護職が行う育児支援

母親の反応をみながら接することや育児方針や思いを受けとめるといった【母親を受容するための支援】を多く実施していた。一方で【他機関との連携・母親に対するサポートの場や情報提供】という支援を充実させていく必要性が述べられていた（データ番号：40）。

②小児が利用する医療機関で勤務する看護師が行う育児支援

外来看護職の乳児の体調不良時の対応方法や内服薬服用方法の親への指導を、子育て支援として充実させていく必要性が述べられていた（データ番号：41）。症状に対する対処方法や内服の仕方に関する指導は多く実施されているが、ソーシャルサポートに関する支援が充足していないことが明らかにされていた。また外来勤務の看護職よりも病棟勤務の看護職の方が、育児支援を意識して実践していることが報告された（データ番号：42）。

③入院を契機とする看護職からのアドバイス

小児救急病棟で入院した親へスクリーニングシートを用いて、入院中に看護職から育児全般のアドバイスをすすめる実践が報告されていた（データ番号：43）。

(4) 子どもの有する問題に対応した親への支援

このカテゴリーは、①双胎児の個別の状況や母親の健康面を考慮した育児指導、②障がいをもつ子どもの親への育児での具体的なアドバイス、③病児の同胞への看護職の支援の3つのサブカテゴリーから構成された。子どもの何らかの身体的な問題や特性に応じ、親への子育て支援の重要性について報告されていた。

①双胎児の個別の状況や母親の健康面を考慮した育児指導

双胎児を育てる母親の個別な事情や状況、健康状態を理解したうえで、双胎児との生活が具体的にイメージできる指導や育児プログラムが必要とされていた（データ番号：44・45）。

②障がいをもつ子どもの親への育児での具体的なアドバイス

母親の精神面を理解したうえで、継続した疾患の管理方法や障がいの特性を考慮した育て方へのアドバイス、保健師や訪問看護師など地域の社会資源活用に関する情報提供について述べられていた（データ番号：46・47）。

③病児の同胞への看護職の支援

看護職が地域の子育て支援事業への理解を深め、福祉専門職と連携して病気をもつ子どもの同胞への支援をはたらきかける必要性を述べていた（データ番号：48）。

(5) 母親の有する問題に対応した支援

このカテゴリーは、①精神疾患をもつ母親への支援、②育児過誤ケースへのケアプロセスの2つのサブカテゴリーから構成された。母親が何らかの問題をもちながら子育てをするあたり、多職種で協働した支援の実践が述べられていた。

①精神疾患をもつ母親への支援

精神疾患をもつ母親への支援について多職種でカンファレンスを持ち、他機関との連携を含めた情報共有や支援状況に関するケース研究、ならびに複数事例の事後検証が報告がされていた（データ番号：49・50）。

②育児過誤ケースへのケアプロセス

育児過誤ケースの母親に対する多職種及び他機関連携についてのケース研究がなされていた（データ番号：51）。

(6) 育児相談と交流できる場の提供

このカテゴリーは、①育児サークル、②親子プログラム、③対象者に応じた相談及び親の交流機会の提供、④健康な子どもの日頃の健康管理や家庭看護への支援、⑤親の負担を軽減し子育てに喜びを感じられるようにする支援の5つのサブカテゴリーから構成された。育児を相談できる場所や親同士もしくは支援者と親が直接交流できる機会を提供することが子育て支援と捉えられ、親自身が子育てを肯定的に感じられる支援の重要性を述べていた。

①育児サークル

自宅外に出て育児サークルに参加してもらうことを子育て支援の一つと捉えていた（データ番号：52・53）。

②親子プログラム

自宅外において親子でふれあう遊びを通したプログラム、育児ストレス緩和、虐待予防目的や発達の問題リスクのある親子など、対象を絞ったりねらいを定めたりする親子プログラムを子育て支援としていた（データ番号：54・55・56）。

③対象者に応じた相談及び親の交流機会の提供

子育て支援に関するレビュー論文で方法論としては来所、電話、面接、インターネット活用など様々であるが親の相談に応じることと、親同士が交流できる場や機会を提供することが子育て支援とされていた（データ番号：57・58）。アトピー性皮膚炎をもつ子どもの母親の子育て支援として母親同士で悩みや不安を吐露しあえる場が必要と述べていた（データ番号：59）。

④健康な子どもの日頃の健康管理や家庭看護への支援

小児の外来看護に関するレビュー論文であるが、このレビューでは育児支援を健康な子どもの日頃の健康管理や家庭看護への支援に関するものを子育て支援として定義され、疾患や障がいに対する支援とは区別されていた（データ番号：60）。

⑤親の負担を軽減し子育てに喜びを感じられるようにする支援

親の発達に関する概念分析において、子育て支援の目的を親の負担を軽減し子育てに喜びを感じられるようにすることと捉え、親が子育てに喜びを感じられるよう親自身の発達支援の重要性を、生涯発達の視点から述べられていた（データ番号：61）。

(7) 医療機関以外での看護職の支援

このカテゴリーは、①乳児院での家族再統合支援、②保育所看護職の親への子育てに関する指導・助言、③児童養護施設の一時利用ケアサービス利用児への看護職の健康管理、④訪問看護師の子どもの成長発達を促す支援、家庭機能を調整する支援、地域社会で生活できる支援の4つのカテゴリーで構成された。乳児院、保育所、児童養護施設、在宅療養という医療機関ではない場所における看護職の子育て支援について報告されていた。

①乳児院での家族再統合支援

様々な事情をもち乳児院で生活する子どもの家族の再統合の増加において、保育士が主導で親と密接にかかわるとともに、看護職は子どもの体調を整え親と生活できるように家族再統合支援をすることが役割として述べられていた。これらの論文において乳児院での子育て支援は主に保育士の役割とされていた（データ番号：62・63）。

②保育所看護職の親への子育てに関する指導・助言

保育所での看護職は書面配布や直接対面によって家庭での健康管理やケア方法の情報提供や指導を行い、加えて病気や発達の相談など病気や障がいに関連した支援を実践していた。一方で、一般的な育児への不安軽減のための個別的母亲への支援も実践していた。さらに親が就業を継続しやすくするための保健指導を含めて子育て支援として実践していた（データ番号：64・65・66）。

③児童養護施設の一時的利用ケアサービス利用児への看護師の健康管理

病気や障がい理由とした児童養護施設の一時的利用が多く、看護職は主に健康管理の実践を子育て支援につながると考え提供していることが報告されていた（データ番号：67）。

④訪問看護師の子どもの成長発達を促す支援、家庭機能を調整する支援、地域社会で生活できる支援

介護スコアの高い超重症児を看護している訪問看護師は、子どもの成長発達を促す支援、家庭機能を調整する支援、地域社会で生活できる支援を子育て支援として捉え、実践していることを明らかにしていた（データ番号：68）。

(8) 看護職の子育て支援に関する課題

このカテゴリーは、①看護職の育児支援に対する認識、②育児支援に関する母親のニーズ、③看護学生の育児支援に関する学び、④小児看護領域での課題・展望としての位置づけ、⑤医師会の行う育児支援、⑥ネウボラを基盤とした看護職の支援の6つのカテゴリーで構成された。看護職自身の子育て支援に関する認識や看護学生の子育て支援に関する学び、小児看護の今後の展望、母親の子育て支援に関するニーズ、医師会や国外の子育て支援の現状から、看護職の子育て支援についての方向性や課題を検討すべきであることが分かった。

①看護職の育児支援に対する認識

看護職の育児支援に関する認識について医療機関に所属する看護職は、子ども自身の状況、母親の状況、親子関係の状況、家族の状況、育児サークルなどの社会資源情報を親が持ち合わせているのかなどの視点で、育児支援の必要性をアセスメントすることを前提としていた。そのうえで親が主体的に育児にかかわれるように支援していくための育児方法の情報提供・教育を子育て支援として実施していることが報告された。また子どもの体調に合わせた育児方法を指導するという点においては、育児支援と認識しているか認識していないかにかかわらず、看護職は実施している可能性が報告された。一方で

コミュニケーション技術の向上、家族の多様化や社会的な変化を含めた虐待の発見、活用可能な社会資源の知識習得を課題としていることも述べられていた（データ番号：69・70）。

②育児支援に関する母親のニーズ

乳幼児健康診査を受ける母親や保育園通園中の母親の子育て支援に関するニーズは、医療体制の充実、遊び場や交流の場の充実、保育・相談機関の整備・経済支援、産後ケアセンターの設置、電話による育児相談、家事ヘルパーサービス、きょうだいを預かってくれる出産施設、緊急時の託児サービス、土日の予防接種、子どもが病気になったときに複数のサービスを選択できる支援策など多岐に及んでいた。NICUを退院した母親は、NICUへの専用の電話相談や退院後の初回外来にNICU看護職の立ち会いを求めている。またNICUを退院した子どもと親同士が参加できる育児サークルの存在を希望していた（データ番号：71・72・73・74・75）。

③看護学生の育児支援に関する学び

看護学生が子どもと親が集う場において実習をすることで、母親のストレス軽減への関わりが重要であることや親同士が交流したり情報交換したりする場が重要であること、専門職が母親の不安を解決できるように情報提供やアドバイスをすることが重要であると学んでいた（データ番号：76・77）。

④小児看護領域での課題・展望としての位置づけ

有識者へのアンケートから小児看護領域で求められる課題で最も多いものに地域での育児支援と報告されていた（データ番号：78）。

⑤医師会の行う育児支援

全国の医師会への調査項目で育児支援とされたものは、乳幼児健診、育児相談、予防接種とされていた（データ番号：79）。

⑥ネウボラを基盤とした看護職の支援

フィンランドの公的な母子保健サービスについて報告され、手厚いサービスや保健・福祉の緊密な連携から本邦での子育て支援の検討を課題として報告されていた（データ番号：80）。

表2 小児看護における子育て支援の先行研究の概観

データ番号	コード	サブカテゴリー	カテゴリー
1	親が安心を得るための電話相談が重要である	電話相談	電話相談
2	小児救急（子ども医療）電話相談と育児情報を提示するWEBサイトを利用する		
3	母乳分泌を維持し直接授乳を成功に導く	母乳育児推進の支援	新生児期の子どもをもつ母親への医療機関の看護職の支援
4	直接授乳での母子接触促進と母の思いに沿った授乳を支援する		

データ番号	コード	サブカテゴリー	カテゴリー	
5	退院時まで母乳分泌を良好に維持し直接授乳を確立する	母乳育児推進の支援	新生児期の子どもをもつ母親への医療機関の看護職の支援	
6	NICU 入院児にカップ授乳から直接母乳を成功させる			
7	NICU で母親への精神的な支援と直接授乳への情報提供を行う			
8	分娩後 24 時間以内の新生児の要求に応じて頻繁に授乳させる			
9	産科病棟と連携して母乳育児支援の NICU スタッフ教育を行う			
10	パネルを使用して母乳育児支援の情報を母親に提供する			
11	母乳育児支援のために必要以上の人工乳の補足を検討する			
12	母乳育児支援のためにタイムリーに看護計画を修正する			
13	直接授乳に関する母親のもつ既存の知識を追加・変更していく			
14	直接授乳支援に向け施設標準化に取り組む			
15	NICU スタッフへの母乳育児支援に関する勉強会を企画する			
16	母親の負担の少ない搾乳方法を検討する			
17	母親の負担の少ない搾乳方法を検討する			
18	搾乳援助時に援助中の看護師を後方支援する			
19	低出生体重児に母子同室で母乳育児を支援する			
20	NICU スタッフに手引き書の提示と勉強会を行い母乳育児支援への意識向上を図る			
21	チェックリストを導入して母乳育児を支援する			
22	業務改善により母乳使用率を高める			
23	超低出生体重児の発達に合わせて母乳育児を支援する			
24	母親からの評価を活かして授乳指導の向上を図る			
25	分娩直後から自律頻回授乳を実施する			
26	完全母子同室による早期母子接触及び頻回直母により母乳育児を支援する			
27	出産直後の直接授乳により母乳育児を向上させる			
28	NICU 退院後のフォローアップ外来を利用する			NICU 退院前後の親子への支援
29	NICU 退院後のフォローアップ外来を利用する			
30	NICU 退院後の育児相談や保健師・助産師の訪問ケアを充実させる			
31	母親が退院後の生活をイメージできるような退院指導が必要である			
32	NICU スタッフが退院後に 2 回電話相談を行い外来受診時には対面で支援を行う			
33	NICU スタッフが退院前に家庭環境を考慮して指導し退院後は電話相談を受ける			
34	NICU スタッフが退院前に起こり得る具体的な問題を想定し細やかに支援する			
35	退院後の両親の困りごとにタイムリーにアドバイスする			
36	母親のタイプ別に支援する			
37	小児科外来看護師の産後訪問により母親と関係性を構築したうえで外来受診時に指導する	看護職からの育児に関するアドバイス		
38	地域資源と連携した退院指導や育児教室を院内で開催する	父親を対象とする支援		
39	母親だけに偏りがちな育児支援を見直し父親にも育児支援を実施する			
40	小児科外来の看護師は母親を受容する支援を多く実施しており、他機関と連携し母親のサポート場の情報提供をより実施すべき	小児科外来の看護職が行う育児支援	乳児期以降の子どもの母親への医療機関の看護職の支援	
41	医療機関の看護師は体調不良時の予測的で具体的な対応方法を情報提供することが必要である	小児が利用する医療機関で勤務する看護職が行う育児支援		
42	医療機関の看護師は子どもの体調に応じた対処方法を指導しているがソーシャルサポートに関する支援が不足している	入院を契機とする看護職からの育児に関するアドバイス		
43	入院後規定のシートに沿って育児状況を把握し個別的なアドバイスをする			

小児看護における子育て支援に関する文献レビュー

データ番号	コード	サブカテゴリー	カテゴリー
44	双胎児の退院前までに内服、沐浴、授乳指導を行う	双胎児の個別的状況や母親の健康面を考慮した育児指導	子どもの有する問題に対応した親への支援
45	双胎児の育児教育プログラム開発と母親の生活と健康面の支援が必要である		
46	ダウン症児の成長発達や育て方の情報提供をする		
47	心不全への対処や地域資源と連携した退院指導をする		
48	病児の同胞児の抱える問題を福祉専門職に情報提供する		
49	精神疾患をもつ母親の育児能力を評価し、多職種多機関で連携した支援をする	精神疾患をもつ母親の支援	母親の有する問題に対応した支援
50	精神疾患をもつ母親の育児能力を評価し、多職種多機関で連携した支援をする		
51	育児過誤ケースに合わせて個別的な支援をする		
52	育児サークルを使用することで親の不安が軽減する	育児サークル	育児相談と交流できる場の提供
53	地域での子育て支援の場に参加することで親の育児ストレスが軽減する		
54	看護教員が地域の親子を対象に育児プログラムの企画し実践する	親子プログラム	
55	看護教員が地域の親子を対象に育児プログラムの企画し実践する		
56	医療機関の職員が病院内育児教室を運営する		
57	対象者に応じた相談と交流機会を提供しており、それを維持していくことが課題である	対象者に応じた相談及び親の交流機会提供	
58	母親の相談に応じることや母親らが気軽に立ち寄れる場所を提供する		
59	母親や家族が悩みや不安を表出できる場を提供する		
60	健康な子どもの日頃の健康管理や家庭看護の相談に応じる	健康な子どもの日頃の健康管理や家庭看護への支援	
61	親の負担を軽減し子育てに喜びを感じられるように支援する	親の負担を軽減し子育てに喜びを感じられるようにする支援	
62	乳児院では看護師が医療的ケアを専門的に担い子どもの健康増進を図る	乳児院での家族再統合支援	医療機関以外の場での看護職の支援
63	乳児院では看護師がサポートシステムの情報提供と退所後の家庭訪問、リハビリテーションを行うことが求められる		
64	保育所看護職は発育・発達相談に応じる	保育所看護職の親への子育てに関する指導・助言	
65	保育所看護職は保護者が仕事と育児を両立できるように保健情報の提供や指導を行う		
66	保護者の子育て不安を軽減し保護者が子どもの健康管理をできるように保健活動を行う		
67	児童養護施設の一時利用ケアサービス利用児へ看護師が医療的ケアを含めて健康を管理する	児童養護施設の一時利用ケアサービス利用児への看護師の健康管理	
68	訪問看護師は子どもの成長発達を促し、家族機能を調整して、地域社会で生活できるように支援する	訪問看護師の子どもの成長発達を促す支援、家族機能を調整する支援、地域社会で生活できる支援	
69	母親が子どもを育てるうえで必要としている援助を行う	看護職の育児支援に対する認識	看護職の子育て支援に関する課題
70	親が主体的に育児に関われるように支援する		
71	医療体制、遊び場・交流の場、行政サービスの充実、保育・相談機関の整備、経済的支援、職場環境の改善を求めている	育児支援に関する母親のニーズ	
72	育児相談・夜間小児科診療、土日の予防接種・健診、育児用品のレンタルを求めている		
73	育児相談・夜間小児科診療、就業に影響しない保育所利用、土日の予防接種を求めている		
74	NICU 退院後の初回外来受診時の NICU 看護師立ち合いを希望している		
75	子どもが病気になったときの選択的に利用できる育児支援サービスを希望している		

データ番号	コード	サブカテゴリー	カテゴリー
76	保護者は多様な子育て支援を必要としている	看護学生の育児支援に関する学び	看護職の子育て支援に関する課題
77	看護学生が母子の絆や母親同士の交流の重要性を学ぶ		
78	小児看護領域として地域での育児支援が課題として最多である	小児看護領域での課題・展望としての位置づけ	
79	医師会では健診・育児相談・予防接種を実施している	医師会の行う育児支援	
80	自治体が設置しているネウボラより母子保健サービスが行き渡り、看護職による手厚い支援が行われている	ネウボラを基盤とした看護職の支援	

IV. 考察

以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >で示して述べる。

1. データ論文の掲載年次の推移

本研究において育児支援や子育て支援をキーワードに抽出された文献は全て1999年以降に掲載され、2005年以降頃から増加している。本邦のエンゼルプランをはじめとする様々な少子化施策に合わせて子育て支援が着目され、影響を受けながら研究されてきたことがうかがえる。少子化対策は少子高齢社会が進行する本邦における喫緊の課題であり、変化を遂げ工夫が加わりながら20年に及んでいる。2016年にはニッポン一億総活躍プランの策定がなされ希望出生率を1.8と掲げて子育て世代、子どもへの政策資源を投入することにもなっている（内閣府）。したがって子育て支援に関する研究成果は子育て支援の充実につながるものと考えられ、今後も取り組むべき主要なテーマであるといえる。また本研究のような医療分野での研究動向以外に保育や教育の分野でどのような研究がなされているのか時代背景とともに研究動向を分析し、本邦全体の子育て支援を概観したうえで小児救急医療における子育て支援への活用を検討したい。

2. 新生児看護分野における子育て支援

【新生児期の子どもをもつ母親への医療機関の看護職の支援】に属したデータ文献は最も多く、中でも<母乳育児推進の支援>という子育て支援は各医療機関の工夫を示した実践報告や効果検証など多くの研究がなされている。母乳栄養には子どもの疾患を予防し、母親の出産後の回復促進や二次障がい予防に効果的であることが明らかにされており（瀬川, 2018）、かつ日本新生児看護学会及び日本助産学会の2学会合同でスタンダードとされる母乳育児支援ガイドラインも発行されている（日本新生児看護学会 日本助産学会, 2010）。以上のことから新生児看護の分野における母乳育児を推進するという子育て支援は既に根付いていることが推察できる。また

< NICU 退院前後の親子への支援 >として、子どもが自宅に帰り成長するための支援を子育て支援として手厚く実施されていることが分かる。

3. 小児救急医療における子育て支援

小児救急医療においては、育児支援や子育て支援の重要性や実践の必要性が総説や商業誌で数多く提言されているが（木野, 大方, 2016; 白田, 2015; 田中, 2002）、本研究によると一般的な育児、新生児の育児、障がいや慢性疾患をもつ子どもの育児に焦点が当たっており、小児救急医療に特化したカテゴリーが【電話相談】のみと研究として非常に少ないことが明らかとなった。このレビューから小児救急医療において子育て支援を考える場合、【乳児期以降の子どもの母親への医療機関の看護職の支援】、【子どもの有する問題に対応した親への支援】、【母親の有する問題に対応した支援】、【医療機関以外での看護職の支援】、【看護職の子育て支援に関する課題】に関するカテゴリーを参考にすることが可能と考えられる。

【乳児期以降の子どもの母親への医療機関の看護職の支援】においては、症状への対処方法や内服方法の指導がなされており、【子どもの有する問題に対応した親への支援】及び【母親の有する問題に対応した支援】のカテゴリーからは、双胎児や障がい、慢性疾患を有するなど、元々子ども側の医療ニーズが高い場合や親自身が疾患をもつ親には、小児救急医療機関を受診した際に、受診理由以外にも子育て支援のニーズがないのか、アセスメントしてかかわる必要があると考えられる。

【医療機関以外での看護職の支援】における<保育所看護職の親への子育てに関する指導・助言>において、夜間や休日に受診が可能な小児救急医療機関には、就業している親が病気の子どもを連れてくることは少ない。保育所での看護職と同じように健康管理やケア方法の情報提供、指導を行う必要があるかもしれない。一方で基本的に救急医療を提供することが主眼となる小児救急医療機関を頻りに利用しないで済むような、家庭でのケア方法、かかりつけ医や小児救急医療機関の使い

分けを勧奨することを含めた指導も考えていく必要があると思われる。

【看護職の子育て支援に関する課題】における<看護職の育児支援に対する認識>に関し、社会資源の知識習得を課題として挙げられており、【乳児期以降の子どもの母親への医療機関の看護職の支援】においても社会資源に関する情報提供の充実を課題としていることが述べられている。小児救急医療機関においても、対象者への一般的な子育ての相談を受けている場や地域の保育事情、関連する行政の子育て支援部門などの社会資源の情報提供は必要で、この知識を小児救急医療機関の看護職が深めて、提供できるようにしていくことは同様に課題にすべきである。

【育児相談と交流できる場の提供】においては、小児救急医療機関での子育て支援を検討する際には質を異にするとと思われる。小児救急医療機関にはそもそも急な疾患や外傷による体調悪化を契機に受診しており、感染予防の観点からも、親子で楽しむことや子どもや親同士が交流する場になることは考えにくい。しかし、こういった場の社会資源の情報をもち情報提供できれば、親への子育て支援になると考えられる。親は普段の状態とは違う子どもにでき得る限りの家庭看護を懸命に実施したうえで、医学的な対応の必要がなかったとしても医療機関を受診することは多く（吉野，2009）、軽症な子どもの割合が高いのが小児救急医療である。したがって小児救急医療機関が子育て支援主催の場にはならないが、少なくともこういった社会資源につなぐ手助けは、小児救急医療機関における子育て支援としてあってもよいのではないかと推察する。

母親を対象とした子育て支援について多く述べられており、小児救急医療機関における子育て支援の対象者も母親となることが多いと想定できる。しかし小児救急医療は夜間や休日に利用することが多く、母親に限らず子どもに付き添う養育者を対象とすべきであろう。

小児救急医療の場において子育て支援を言及した研究は少ないが、小児救急医療は軽症で子育て支援を対象とする子どもから救命や集中治療、慢性疾患や障がいの管理を必要とする子どもを幅広く対象としている（市川，2001）。小児看護分野を含めてレビューすると様々な視点で子育て支援を実践し、子育て支援の必要性を述べられていることが分かった。これらの視点は小児救急医療の場で多用できると考えられる。小児救急医療を必要としている子どもの多くは、入院を必要としないケースが多いため、外来で実践できる子育て支援を明確化し実践を積むことは小児救急医療の質向上にもつながると考えられる。小児救急医療においては生命の安全やトリアー

ジなどが重要視されているが、緊急性の低い子どもが多いからこそ、子育て支援を機能として意識し看護として定着することが望まれる。また整備されつつある小児救急医療機関の機関数や開業時間、受診者数、医療スタッフの就業状況、地域差などの調査も並行して行い、現実的かつ効率的な小児救急医療における子育て支援を探索し実践していく必要があると考えられる。

V. 結論

1. 文献レビューによって子育て支援の対象者は母親が多かった。小児救急医療のなかで特化した子育て支援は【電話相談】であった。
2. 文献レビューによって【乳児期以降の子どもの母親への医療機関の看護職の支援】、【子どもの有する問題に対応した親への支援】、【母親の有する問題に対応した支援】、【医療機関以外の場での看護職の支援】、【看護職の子育て支援に関する課題】に関するカテゴリーを参考に、症状への対処方法や内服方法に関する親への指導、医療ニーズの高い子どもや疾患をもつ親には子育て支援ニーズが高いと捉えてアセスメント、親への健康管理とケア方法の指導、かかりつけ医と小児救急医療機関の使い分けの指導、社会資源に関する情報提供の充実が小児救急医療における子育て支援の検討材料になると考えられた。

今後の課題

保育や教育、福祉など関連分野の子育て支援に関する研究動向も調査していく必要がある。このレビュー結果を基に小児救急医療における子育て支援に関する実態を明らかにし、現実的かつ効率的な子育て支援策を提案できるように研究を進めたいと考える。

謝辞

本研究をご指導いただきました大阪総合保育大学 小椋たみ子 教授に感謝申し上げます。また本研究は、JSPS 科学研究費（基盤研究 C）18K10411 の助成を受けたものである。なお、利益相反に関する開示事項はない。

文献

- 市川光太郎（2007）. 小児科から見た二次救急医療体制の提案 - 北九州方式を中心として -. 日本臨床救急医学会雑誌, 10, 336-341.
- 市川光太郎（2001）. 小児救急医療の現況と将来展望. 小児看護, 24(10), 1423-1426.

- 市川光太郎 (2000). 小児救急医療の原点. 小児科診療, 64(11), 1647-1651.
- 賀須井貴子 (2016). 第2章 厚生白書・厚生労働白書に見る「子育て支援」概念. 千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書, 301, 18-34.
- 木野稔, 大方美香 (2016). 第6章 展望編 今回の調査研究を通じた課題と展望. 平成27年度 病児保育、夜間保育、ベビーホテル等の利用実態に関する調査研究報告書.
- 厚生労働省 (2017). 小児医療の体制構築に係る指針, 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp> > file > 06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku (2019年11月17日)
- 厚生労働省 (2015a). 小児医療に関するデータ, 厚生労働省 <https://www.google.com/url?client=internal-uds-cse&cx=005876357619168369638:ydrbkuj3fss&q=https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12401000-Hokenkyoku-Soumuka/0000096261.pdf&sa=U&ved=2ahUKEwjmxXE5aHiAhWCGaYKHVq5BeAQFjAAegQIAxAB&usg=AOvVaw2sdSSrYs8-DJSyJ4szICEf> (2018年4月20日)
- 厚生労働省 (2015b). 小児医療関連施策, 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12401000-Hokenkyoku-Soumuka> (2019年11月17日)
- 厚生労働省 (2014). 救急医療体制等のあり方に関する検討会報告書, 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp> > 05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka (2019年11月17日)
- 国の取組み これまでの少子化対策の取組, 内閣府 <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/data/torikumi.html> (2019年8月25日)
- 松岡角秀, 酒井玲子, 佐藤隆史, 石川広己 (2004). 中規模市中病院におけるプライマリケア小児科研修-卒後臨床研修必修化のモデル・プログラムも目指して-. 医学教育, 35(5), 321-326.
- 森田美佐 (2010). 日本の子育て支援とマザーハラスメント. 高知大学学術研究報告, 59, 155-164.
- 瀬川雅史 (2018). 乳児栄養 母乳育児の効果と母乳育児支援. 外来小児科, 21(1), 15-21.
- NICUに入院した新生児のための母乳育児支援ガイドライン, 日本新生児看護学会 <http://shinseijikango.kenkyuukai.jp/images/sys%5Cinformation%5C20111129171724-2DD14C489C3CA9DF61B2B50D756F97E3C3E2E0AD0505DA931B5D2BAEB3844AE0.pdf> (2019年8月25日)
- 田中哲郎 (2002). 小児救急医療としての政策医療. 医療, 56(1), 5-8.
- 田中哲郎 (2000). 特集小児救急の初期対応-急病と事故-小児救急の特定とその重要性. 小児科臨床, 58, 5-9.
- センターについて, 豊能広域こども急病センター <http://www.toyono-kodomo.jp> (2019年11月17日)
- 白田美奈子 (2015). 外来で求められるホームケア指導. 小児看護, 38(13), 1650-1655.
- 吉野広美 (2009). 小児救急における家族への初期対応指導. 小児看護, 32(7), 904-910.
- 横田俊平 (2005). 小児救急医療に対する自治体, 国からの支援. 日本医師会雑誌, 134(5), 817-822.

Literature Review on Childcare Support in Child Nursing: : Implications for Childcare Support in Pediatric Emergency Care

Seiki Fujisawa

Osaka University of Comprehensive Children Education Graduate School

The contents of child care support and research trends in child nursing were reviewed. This study aimed to analyze the research trends in childcare support in Japanese pediatric emergency care. We used the literature databases of Japan Medical Abstracts Society and the National Institute of Informatics. The year of publication was preset.

A total of 80 papers were reviewed, using “pediatric emergency,” “childcare support,” and “child nursing” as keywords. The contents related to childcare support were categorized based on their similarity.

All the studies were published after 2000. The contents included “telephone consultation,” “support to mothers with newborns by nurses in medical institutions,” “support to mothers of children after infancy by nurses in medical institutions,” “support for parents who respond to problems with children,” “support for mothers with problems,” “providing opportunities for interaction with child care consultations,” “nursing support in places other than medical institutions,” and “nursing issues related to childcare support.” According to many literatures, it was stated as support for childcare to give advice to mothers of young children. We present suggestions that can be used to support childcare in pediatric emergency medical institutions.

Key words : pediatric emergency care, child nursing, childcare support, literature review